

第 5 回

東北野生動物管理研究交流会 in もりおか

2018年12月22日（土曜日）

アイーナ いわて県民情報交流センター

講演・ポスター会場：804 会議室

懇親会会場：盛岡地域交流センター マリオス 20 階



主催：東北野生動物管理研究交流会

（同）東北野生動物保護管理センター

協賛：第28期 プロ ナトゥーラ ファンド助成

後援：「野生生物と社会」学会

タイムスケジュール

【会場：804 会議室】

9：30 開 場 ※受付後、この間にポスター展示は可能です

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～10：15 趣旨説明

10：15～12：20 第1部 岩手セッション

10：15～11：15

見えないシカに向き合う ～ニホンジカの生態と北東北における分布拡大～

高橋 裕史 森林総合研究所 東北支所

11：20～12：20

早池峰山のシカ食痕調査と柵の設置

鈴木 まほろ 岩手県立博物館

12：20～13：20 昼食・休憩 ※この間にポスター展示および発表も可能です

※804 会議室では、ペットボトル飲料や弁当等の飲食が可能です、
カップラーメン等の汁ものは禁止となっております。

13：20～14：45 第2部 ポスター発表

コアタイム 13：20 ～ 13：55 発表番号（偶数）

13：55 ～ 14：30 発表番号（奇数）

14：45～16：20 第3部 座談会 東北の野生動物管理の今と未来

登壇者：星崎和彦（秋田県立大学）

山内貴義（岩手大学）

鞍懸重和（岩手県環境保健研究センター）

宇野壮春（東北野生動物保護管理センター）

望月翔太（福島大学）

斎藤昌幸（山形大学）

コーディネーター：江成広斗（山形大学）

16：20～16：30 総括・閉会の挨拶

※会場は17時まで使用可能です。片付け等につきましてご協力ください

【会場：カフェテラス スカイメトロ（マリオス20階）】

18：00～20：00 懇親会 ※当日参加は受け付けておりません

見えないシカに向き合う ニホンジカの生態と北東北における分布拡大

高橋裕史（森林総合研究所 東北支所）

ニホンジカの採食圧による植生衰退が各地で問題になっている。植生が回復していないまま、ニホンジカの生息数がさらに増加したり、高密度を維持したりする例も報告されている。このような現象をもたらす要因として、未利用資源への転換など餌利用の可塑性、冬の厳しさや餌資源の枯渇など環境変動に対するメスの生存力の頑健性といったニホンジカの特性が明らかになってきた。本講演では、洞爺湖中島における識別個体と個体群の長期追跡から導かれたニホンジカの特性と、試験的な密度低減過程における捕獲効率や目撃効率の低下、北東北におけるニホンジカ生息現況を紹介し、東北地方で爆発的な増加も想定されるニホンジカの対策を考える一助としたい。

早池峰山のシカ食痕調査と柵の設置

鈴木まほろ（岩手県立博物館）

岩手県中央部に位置する早池峰山の上部には、多くの固有種・固有変種や分布南限種など希少な植物が生育しており、これらの消失は日本列島における生物多様性の甚大な損失となる。早池峰山麓では2010年頃からニホンジカの出没が目立つようになり、上部の希少な植物についても影響が危惧されるようになった。そこで我々は、山頂までの登山道沿いの植物の食痕を記録する簡易な調査を2015年から開始した。講演ではその結果を報告するとともに、2018年秋の調査によって新たに判明したニホンジカによる早池峰山の季節的利用状況についても報告する。

また、東北森林管理局によって実施された早池峰山周辺におけるニホンジカの密度・食痕調査の結果と、2018年夏に県及び東北森林管理局によって登山道沿いに試験的に設置された防鹿柵についても紹介する。あわせて、早池峰山における今後のシカ対策について考察と提案を行いたい。

座談会 東北の野生動物管理の今と未来

日常的な生業や生活に対して看過できない影響をもたらすウシやイノシシをはじめとした大型哺乳類の分布回復が東北地方各所で顕著になり、野生動物による被害問題は新たなステージに入りつつあります。一方で、全国規模で人口減少時代を向かえた日本において、その速度が最も速い地方がここ東北です。過疎や高齢化という厳しい社会条件のもとで、問題解決のために私たちが目指すべき目標や手段について、幅広い主体の参画をもとにした公論形成が求められています。

人と野生動物との共存にかかわる問題の拡大と多様化を受け、地域の野生動物管理を牽引できる中核的な人材が近年徐々に東北地方に集まってきています。この座談会では、そうした方々と一堂に会し、以下の話題を中心に、これからの東北地方の野生動物管理について自由に語っていただきます。

座談会の主なテーマ

- ① 新参者のシカを管理する
- ② 生活圏に迫る野生動物に対処する
- ③ 縮小社会において管理の担い手を確保する

登壇者：星崎和彦（秋田県立大学）、山内貴義（岩手大学）、鞍懸重和（岩手県環境保健研究センター）、宇野壮春（東北野生動物保護管理センター）、望月翔太（福島大学）、斎藤昌幸（山形大学）

コーディネーター：江成広斗（山形大学）

ポスターセッション

- P-1 東日本だってあるあるマダニ感染！
竹田努¹・田鳥菜々子²・小寺祐二^{1,2}
(1:宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター, 2:宇都宮大学農学部)
- P-2 ハクビシン (*Paguma larvata*) の効果的な捕獲方法の検討
福島良樹^{1,2}・青井俊樹²(1:株式会社 北日本朝日航洋, 2:元 岩手大学野生動物管理学研究室)
- P-3 ツキノワグマに対する早期防御の有効性について
菊池恭則¹・滝沢勲¹・川村輝雄¹(1:サージ ミヤワキ株式会社 盛岡事務所)
- P-4 ニホンジカ防御のための集落さく(電気さく)の効果検証
菊池恭則¹・滝沢勲¹・川村輝雄¹(1:サージ ミヤワキ株式会社 盛岡事務所)
- P-5 ニホンジカの侵入時期の違いが森林下層植生と嗜好性に与える影響
坂田ゆず¹・上地彩佳¹・白濱菜海¹(1:秋田県立大学)
- P-6 岩手県北上高地の山間部に位置する放棄牧草地におけるニホンジカの利用状況
野田隆紀(元 岩手大学農学部)
- P-7 ニホンジカのワラビ採食状況の調査
古澤優佳¹・中村人史¹(1:山形県森林研究研修センター)
- P-8 ニホンジカの分布域最前線 における糞粒 DNA を用いた遺伝的特徴の分析
山田志穂¹・上條隆志¹・相川拓也²・高橋裕史²・坂田ゆず³・永田純子⁴
(1:筑波大学, 2:森林総合研究所 東北支所, 3:秋田県立大学, 4:森林総合研究所)
- P-9 広域野生動物管理システムを考える
梶光一・林好美(東京農工大学)
- P-10 北日本に生息するミサゴの遺伝的構造解析
長井和哉・榊原貴之・森航大・佐藤和人・東淳樹(岩手大学農学部)
- P-11 南会津地方におけるニホンジカの生態 -GPS 発信機による追跡-
木野田拓也¹・宇野壮春¹・千本木洋介²
(1:合同会社東北野生動物保護管理センター, 2:福島県南会津町)
- P-12 小笠原諸島における外来種ネズミ類の遺伝学的集団構造
齊藤茜¹・伊藤駿太¹・中田千裕¹・橋本琢磨²・港隆一²・中島卓也²・玉手英利¹
(1:山形大学理学部, 2:自然環境研究センター)
- P-13 ツキノワグマの DNA 解析による親子推定に基づく個体数推定
千田香奈¹・大西尚樹²・高山楓³・小池伸介³・山崎晃司⁴・渋谷晃太郎¹
(1:岩手県立大学総合政策学部, 2:森林総合研究所東北支所, 3:東京農工大学農学部,
4:東京農業大学地域環境科学部)
- P-14 岩手県におけるイノシシの分布拡大の変遷
今田日菜子¹・大西尚樹²(1:岩手県立大学総合政策学部, 2:森林総合研究所東北支所)

- P-15 東北地方の高速道路におけるツキノワグマの行動について
大槻知弘¹・築瀬知史²・上村恵也¹
(1:株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北 交通環境部, 2:東日本高速道路株式会社東北支社 管理事業部)
- P-16 岩手県におけるニホンジカの栄養状態と繁殖状況の関係
田中美優¹・鞍懸重和²・山内貴義¹(1:岩手大学, 2:岩手県環境保健センター)
- P-17 福島県富岡町における哺乳類の生息状況について 2014年～2018年のセンサーカメラ調査結果報告
鬼久保浩正¹・板谷浩男¹(1:浜通り生物研究会)
- P-18 Maxentを用いた仙台市におけるツキノワグマ出没リスクマップの作成
小野晋(株式会社 地域環境計画)
- P-19 人口減少は獣害を深刻化させるのか：山形県の事例
高田真大朗・江成広斗(山形大学農学部)
- P-20 侵入初期における積雪地域のイノシシの生息地選択
鈴木総介・江成広斗(山形大学農学部)
- P-21 多雪地域におけるニホンザルと中型食肉目の種子散布機能の比較
豊川春香・江成広斗(山形大学大学院農学研究科)
- P-22 北奥羽地域のツキノワグマが利用した植生環境の季節変化
久門美月¹・鞍懸重和²・山内貴義¹(1:岩手大学農学部, 2:岩手県環境保健センター)
- P-23 岩手県一関市におけるニホンイノシシの植生利用の季節変化
多田峻太郎¹・鞍懸重和²・山内貴義¹(1:岩手大学農学部, 2:岩手県環境保健センター)
- P-24 岩手県内の野性鳥獣肉における放射性セシウム濃度の影響
最上烈¹・鞍懸重和²・大橋慶太郎²・山内貴義¹(1:岩手大学農学部, 2:岩手県環境保健センター)
- P-25 駒止湿原におけるニホンジカの生息密度
千本木洋介¹・遠藤知樹¹・渡部健一¹・奥田圭²(1:福島県南会津町, 2:広島修道大学)
- P-26 滋賀県伊吹山におけるニホンジカによる掘り起こしと植生の関連性
田崎駿平(合同会社 東北野生動物保護管理センター)
- P-27 クマはなぜアリを食べるのか？ 北海道東部のヒグマの事例
伊藤正義(合同会社 東北野生動物保護管理センター)
- P-28 北上山地における夏期のツキノワグマの環境利用にアリ類の営巣基質としての枯死材が及ぼす影響
安江悠真¹・青井俊樹²・國崎貴嗣²・原科幸爾²・高橋広和³・佐藤愛子²
(1:岩手大学大学院 農学研究科, 2:岩手大学 農学部, 3:株式会社 数理設計研究所)
- P-29 行政アンケートをニホンザルの保護管理にどう生かすか
江成はるか¹・江成広斗²(1:雪国野生動物研究会, 2:山形大学)
- P-30 タイトル登録なし 名生啓晃(東京農工大学)

注意事項

- 指定場所以外での喫煙は禁止されています。喫煙所は3階屋外にございます。
- 804 会議室では、ペットボトル飲料および弁当の飲食が可能ですが、カップラーメン等の汁ものは禁止となっております。
- ゴミはお持ち帰りください。
- 講演やポスターの写真撮影やビデオ撮影はご遠慮ください。



【 研究交流会実行委員名簿 】

岩手大学：青井 俊樹・山内 貴義・東 淳樹

山形大学：林田 光祐・江成 広斗・斎藤 昌幸

山形県森林研究研修センター：齊藤 正一

(同) 東北野生動物保護管理センター：宇野 壮春・関 健太郎

雪国野生動物研究会（事務局）：江成 はるか